



2024年8月期 第1四半期

決算説明資料

株式会社トリプルアイズ
(証券コード5026)

CONTENTS

四半期概況

成長市場におけるM&Aと成長戦略

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連

株式会社ゼロフィールドの当期首連結子会社化により、前年同期比で売上高及び売上総利益が増加し、EBITDAは黒字となっています。進捗率についてはSI部門はほぼ見込み通り、AIZE部門については想定を上回る伸びをしております。GPUサーバー事業については第2四半期以降に見込まれる案件があり、想定通りの進捗となっています。

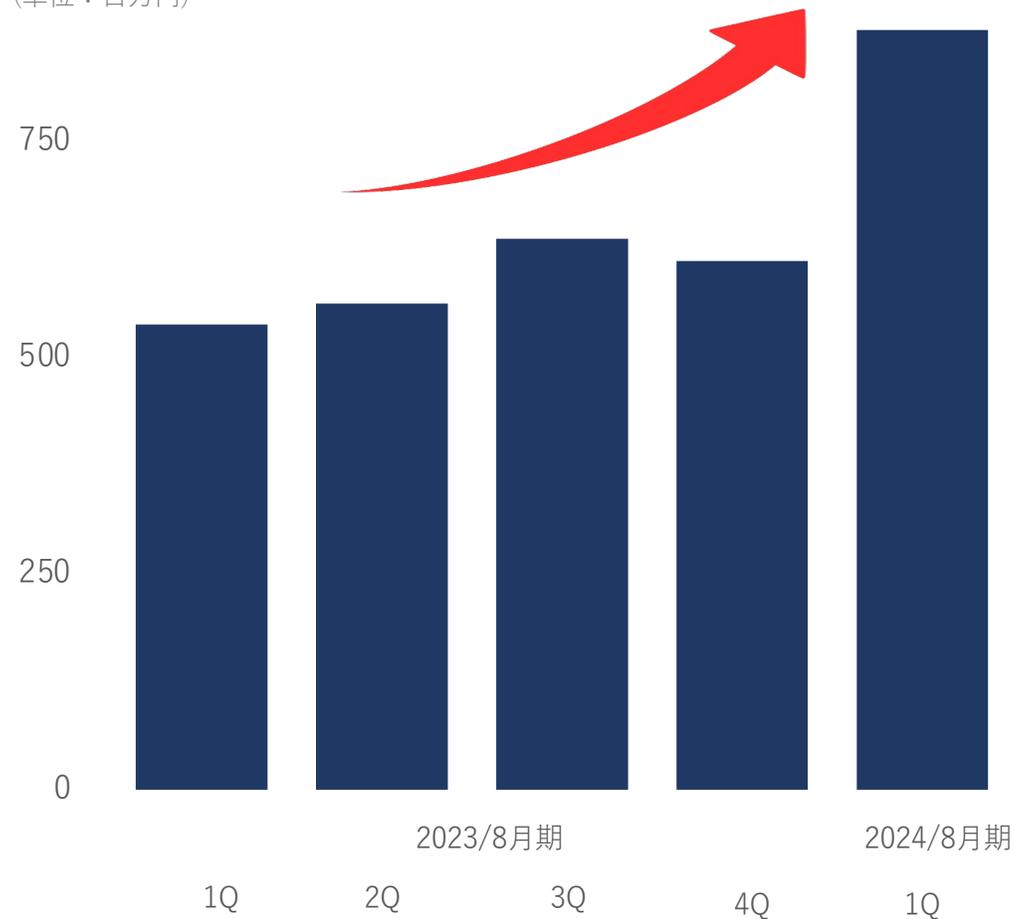
(単位：百万円)	2023年8月期 第1四半期実績	2024年8月期 第1四半期実績	前年同期比	2024年8月期 通期計画	2024年8月期 通期計画進捗率 (%)
売上高	537	877	163.3%	4,045	21.7%
売上総利益	144	236	164.1%	1,254	18.9%
営業利益・損失(△)	△10	△72	—	△96	—
EBITDA	△1	11	—	79	14.0%
経常利益・損失(△)	△9	△30	—	△86	—
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失(△)	△10	△25	—	△87	—

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息。これまでは、EBITDAを営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費と集計・表示しておりましたが、株式会社ゼロフィールドの業績の実態を踏まえ、電気料金に係る補助金及び支払利息を含めた経常利益で評価を行うことが、事業の実態を適切に示すものと判断しており、四半期報告書のセグメント情報等の記載と併せて表示方法を変更しております。

各四半期の売上高、EBITDAの推移は以下の通りです。四半期売上高については前期第4四半期比+267百万円と大きく増加しており、また、EBITDAについては前期各四半期は赤字となっておりましたが当第1四半期にてEBITDA黒字化を実現しております。なお、前期第4四半期はM&Aに係る一時的な費用が含まれており赤字幅が大きくなっています。

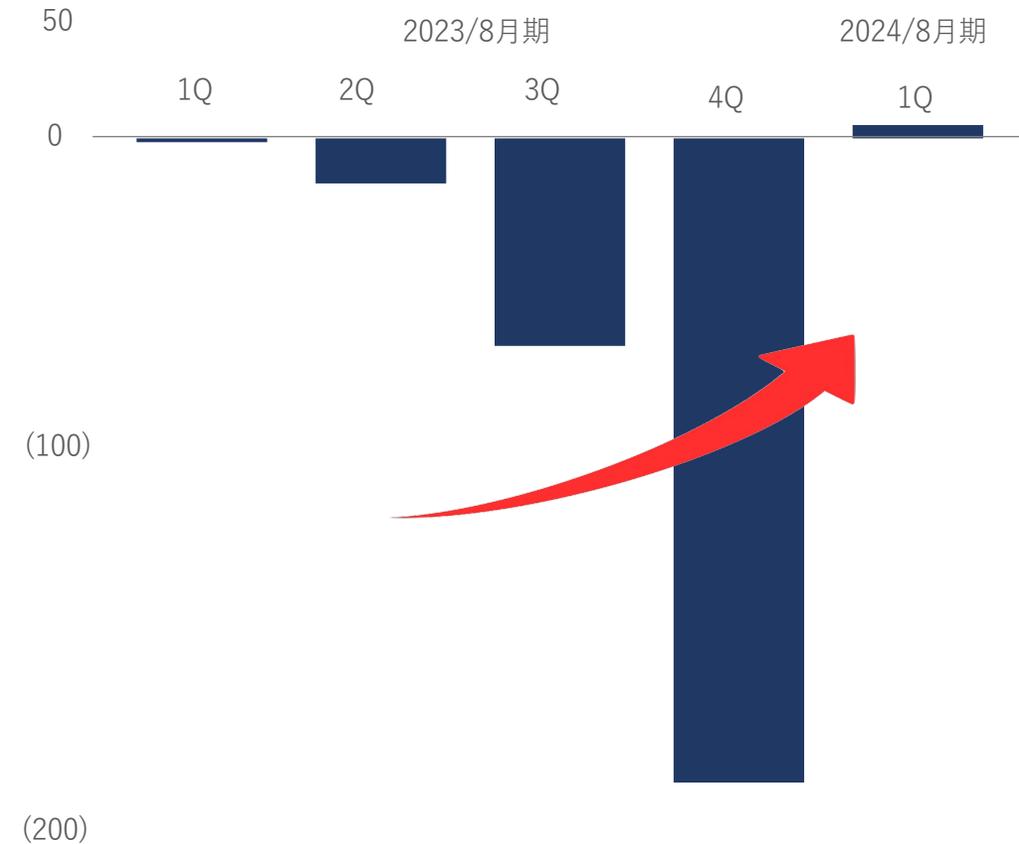
売上高

(単位：百万円)



EBITDA

(単位：百万円)



当第1四半期は、GPUサーバー事業の売上進捗が14.3%となっておりますが、第2四半期以降の見込み状況を踏まえ当期業績予想に対して想定通りに進んでおります。SI部門については昨今のエンジニア不足を背景としたシステム開発需要を取り込み堅調に推移しております。改正道路交通法の施行に伴うアルコールチェッカー関連販売の増加及び太陽光発電導線盗難防止AI監視システムの導入等の増加によりAIZE部門は順調に推移しております。また、GPUサーバー事業につきましては第2四半期以降に進捗する予定です。

(単位：百万円)	2023年8月期 第1四半期	2023年8月期 第2四半期	2023年8月期 第3四半期	2023年8月期 第4四半期	2024年8月期 第1四半期	2024年8月期 通期計画	通期計画 進捗率(%)
売上高	537	561	636	610	877	4,045	21.7%
SI	407	408	447	456	457	1,872	24.5%
AIZE	129	153	189	153	213	725	29.4%
GPU	—	—	—	—	206	1,447	14.3%
売上総利益	144	154	163	115	236	1,254	18.9%
営業利益	△10	△23	△64	△172	△72	△96	—
EBITDA	△1	△13	△61	△190	11	79	14.0%
SI+AIZE	△1	△13	△61	△190	4	△68	黒字化
GPU	—	—	—	—	7	147	4.8%
経常利益	△9	△21	△64	△195	△30	△86	—
SI+AIZE	△9	△21	△64	△195	△2	△93	—
GPU	—	—	—	—	△28	6	—

(単位：百万円)

		2023年8月期 第1四半期	2023年8月期 第2四半期	2023年8月期 第3四半期	2023年8月期 第4四半期	2024年8月期 第1四半期	2024年8月期 通期計画	通期計画 進捗率(%)	
AI ソ リ ュ ー シ ョ ン 事 業	SI 部 門	売上高	407	408	447	456	457	1,872	24.5%
		売上総利益	96	96	98	88	93	399	23.3%
	AIZE 部 門	売上高	129	153	189	153	213	725	29.4%
		売上総利益	47	57	65	26	74	233	32.1%
	小計	販管費	154	177	227	287	172	724	23.8%
		営業利益	△10	△23	△64	△172	△4	△91	—
経常利益		△9	△21	△64	△195	△2	△93	—	
AIZE請負売上		84	93	128	113	115	466	24.8%	
AIZEデバイス売上		12	26	7	7	55	110	50.6%	
AIZEサービス(MRR)売上		23	25	24	24	27	112	24.6%	
四半期末時点拠点ID数		1,874	2,533	2,704	3,250	5,801	18,706	—	
SI人月(人月)		664	665	707	785	756	3,095	24.4%	
SI単価(千円)		614	614	632	582	605	605	—	

SI部門1Q進捗

- ・概ね前期4Qと同水準の売上高、人月、単価で推移
- ・契約単価向上施策を継続実施中
- ・チーム体制化を通じて、商流改善、プライムでのSES、受託開発案件獲得を推進中

AIZE部門1Q進捗

- ・アルコール検知デバイスの販売量の増加、これによる拠点ID数の大幅な増加
- ・太陽光発電導線盗難防止AI監視システム導入
- ・デバイス販売をフックとした長期MRRの増加し、今後利益率さらなる改善が見込まれる
- ・開発部門におけるプロジェクトマネジメント体制の改善、標準化の実施

AIソリューション事業販管費1Q進捗

- ・研究開発体制の見直しによる最適化
- ・ダイレトリクルーティング中心の採用手法へのシフトにより採用関連費の最適化
- ・前年4Qは株式会社ゼロフィールドの連結子会社化に伴うM&A仲介手数料58百万円が発生していた

スポットの販売売上は四半期ごとに暗号資産の市況の影響によりボラティリティがありますが、数年単位のサイクルで市況が動いており、これからの活況が見込まれます。大型ロットのマシン販売を第2四半期に見込んでおり、当期業績予想に対して概ね想定通りに進んでおります。ストックの保守管理収入の割合は累計マシン販売の増加に伴い上昇傾向にあり、保守管理を継続する顧客は増加する傾向にあります。当期計画しているマシン販売及び暗号資産市場の活発化により更なる保守管理収入の積み上げが見込んでおります。

(単位：百万円)	2024年8月期 第1四半期	業績予想	業績予想 進捗率
マシン販売等売上高	56	792	7.1%
保守管理収入売上高	150	654	23.0%
売上総利益	68	620	11.1%
営業利益	△69	△11	—
EBITDA	7	147	4.8%
経常利益(セグメント利益)	△28	6	—



24年8月期注力内容(23/10/13開示)

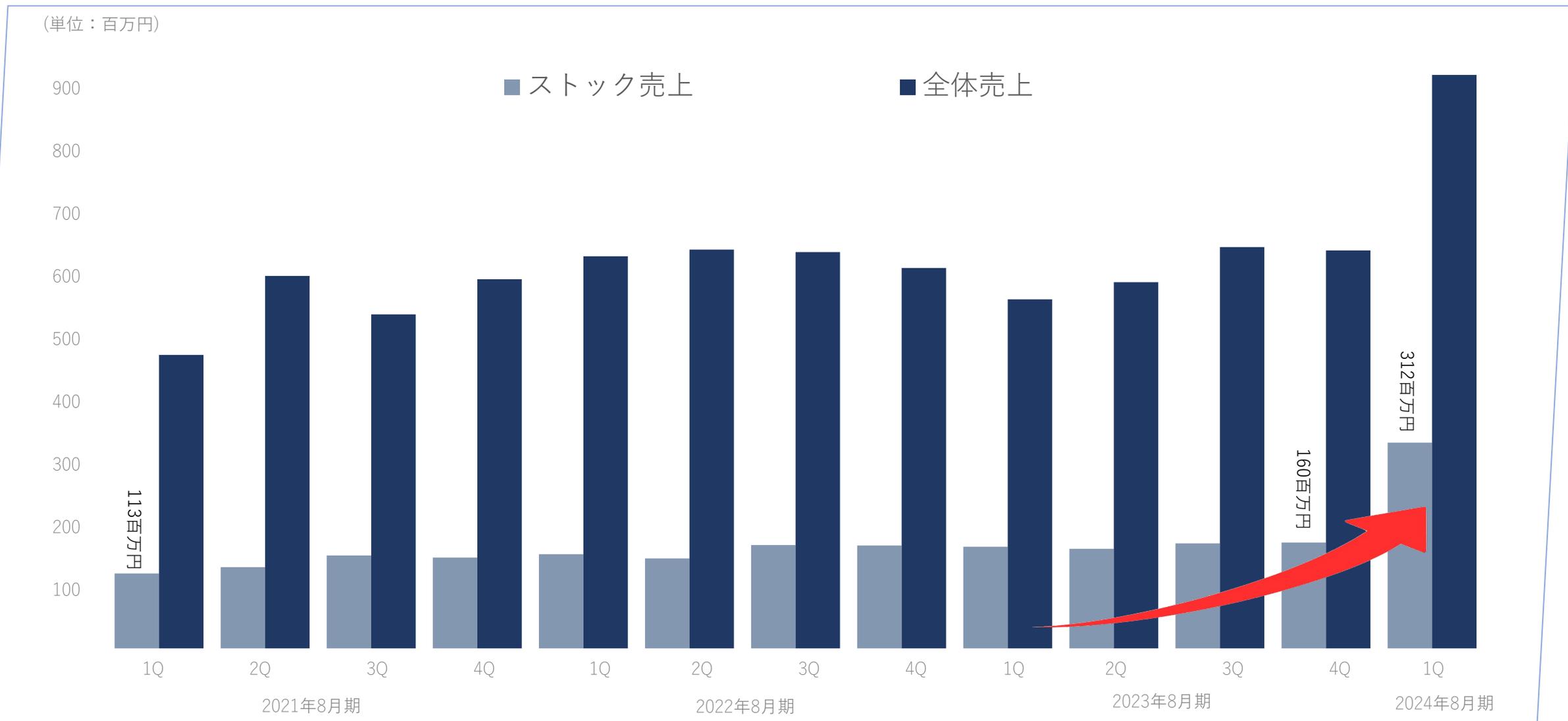
- ・ 高度な画像処理や生成AIを含むAIに求められる計算力不足に対応するAI開発用GPUサーバーの開発、販売。それに関連するサービスの開発
- ・ モジュール型データセンターであるDINOの大規模案件への注力
- ・ デジタル通貨、暗号資産、ブロックチェーンの動向、電力料金、投資環境及び税制の動向に応じたマイニング用途の顧客ニーズに対するきめ細やかな商品設計と、安心安全のサポート

24年8月期1Q進捗状況

- ・ 商品ラインナップの拡充や販売代理店の新規獲得が新規顧客の獲得に繋がり、管理売上は前期より増加
- ・ GPUサーバーのAI活用に向けた事業開発を進めており、中長期的な成長のための研究開発を着実に進捗
- ・ 当第1四半期では暗号資産市場の相場が好転し、上昇傾向にあり、今後のマシン販売売上の増加を見込む

*トリプルアイズグループの決算期8月にあわせており、2月期と8月期の年度決算を比較している。
23/2期以前の数字は未監査の参考数値です。

当社グループのストック売上は、AIソリューション事業における安定的なビジネスの推移を示す継続的な契約に関する取引高(取引が1年超継続している得意先に対する四半期毎の売上高とGPUサーバー事業の保守管理収入で構成されています。2021年8月期第1四半期時点の113百万円から23年8月期第4四半期時点で160百万円に41.6%増加しており、さらに株式会社ゼロフィールドの連結子会社化により当第1四半期は312百万円に増加しています。



CONTENTS

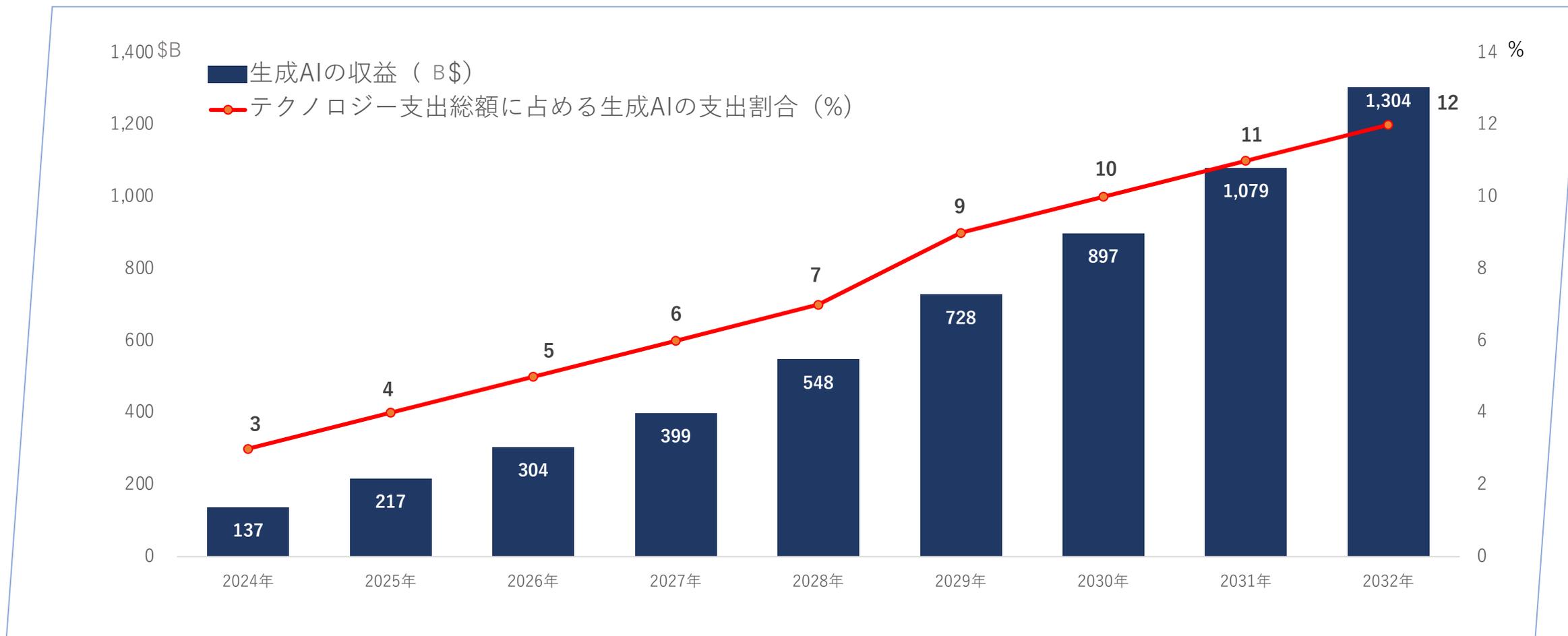
四半期概況

成長市場におけるM&Aと成長戦略

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連

IT人材の不足を憂う一方で、衝撃的な進化を遂げる生成AIを私たちの新しいパートナーとして活用しようという動きも活発になっています。文章生成や画像生成だけでなく、音楽生成、動画生成までAIのサービスは登場しており、生成AI市場は順調に拡大することが見込まれております。

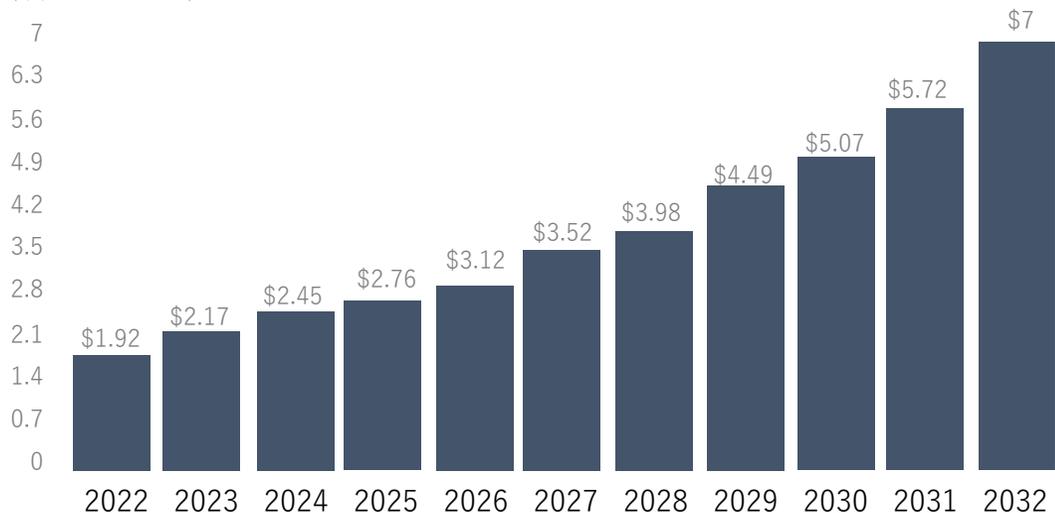


※Bloombergインテリジェンスのレポート（2023年6月2日）をもとに作成。

GPUサーバーを活用する暗号資産マイニング市場は2032年までに70億ドルに拡大する見込みで、市場シェアが1%未満の日本には大きな潜在力があります。2024年に入り、米証券取引委員会がビットコインを運用対象とする上場投資信託（ETF）の上場申請を初めて承認したことで暗号資産マイニング相場の活況が予想されます。一方、2028年には12兆円に達すると見込まれるGPUそのものの市場も6年で3倍の成長を遂げる勢いにあります。GPUaaS（GPU as a Service）市場は2030年には約255億ドルに成長し、年平均成長率は34.8%になると予測されています。

暗号通貨マイニング市場規模、2023年～2032年

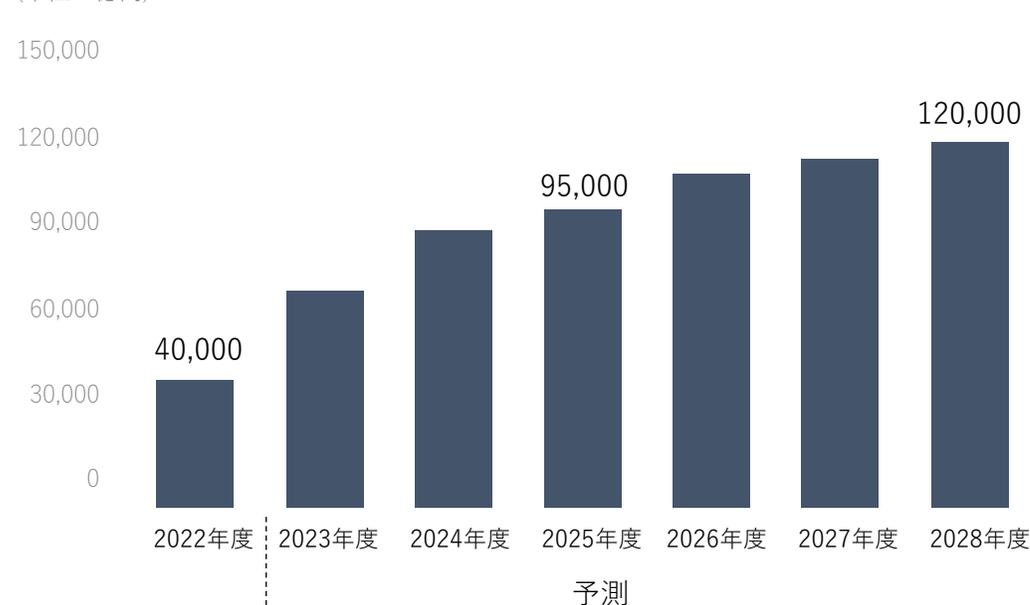
(単位：USD billion)



出典 <https://www.precedenceresearch.com>

GPU世界市場規模・予測

(単位：億円)



予測

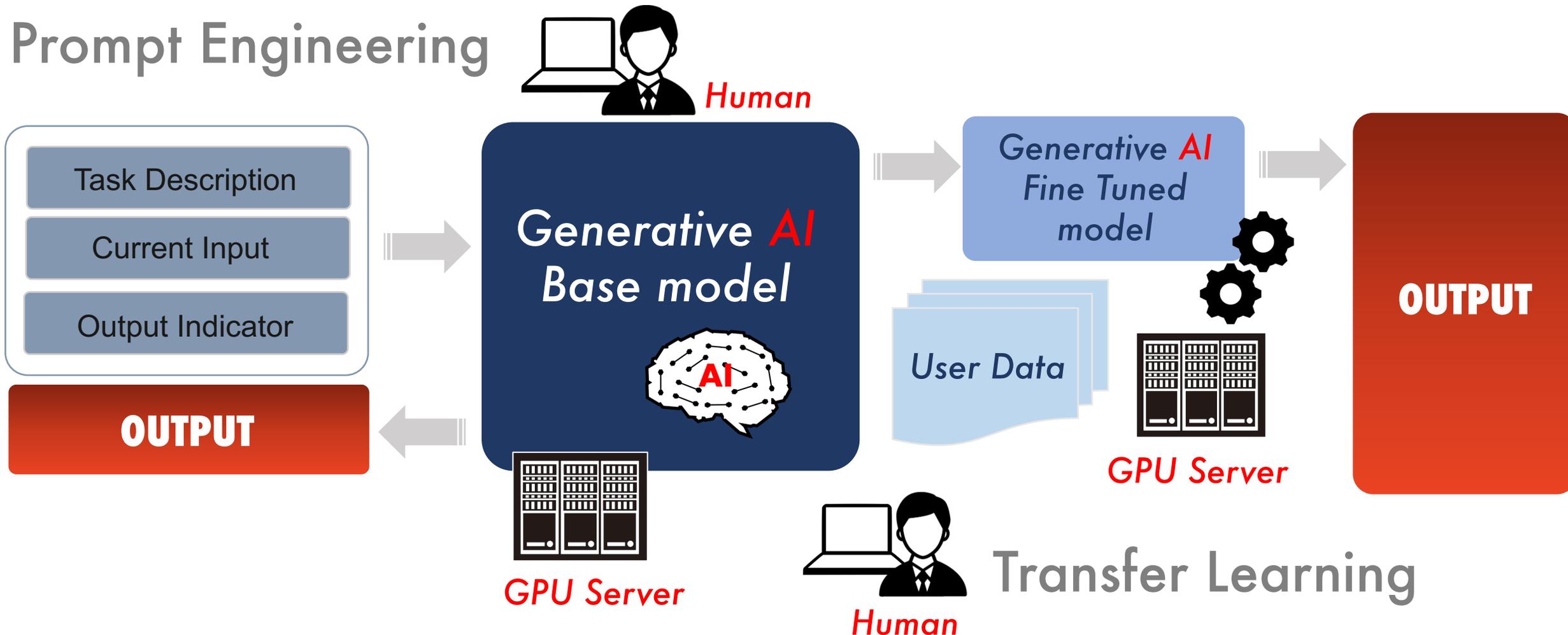


ロイター通信「米SEC、暗号市場の転換点となるビットコインETFを承認」

出典 <https://www.reuters.com/technology/bitcoin-etf-hopefuls-still-expect-sec-approval-despite-social-media-hack-2024-01-10/>

生成AIを私たちの新しいパートナーとして活用しようという動きが活発になっています。生成AIから、より用途に適ったアウトプットを得るためにプロンプトエンジニアリングが注目されています。また、AIを個別の業務にフィットさせるファインチューニングも重要になっています。この両者はAIとエンジニアの協働を目指す流れです。

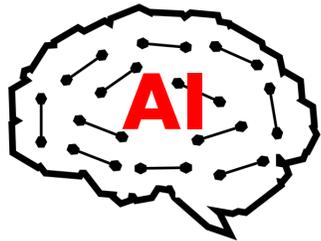
Prompt Engineering



当社はAIの社会実装を目指しております。株式会社ゼロフィールドの連結子会社化により広範なGPUサーバー活用に自由度がまし、よりAIテクノロジーの社会実装を推進できる体制となっております。既存のGPUの開発・販売にとどまらず、汎用性の高いGPUの提供によるAI実装を実現していきます。生成AI時代において、AI開発力とコンピューティングパワーを併せもった唯一無二のAIベンチャーとして事業を推進します。

Technical Capabilities

技術力 × 社会実装力
Implementation Capacity



AI Development Capability

AI開発・実装 × GPUサーバー

Machine-Computing Power



当社グループの事業分野及び各事業分野における注力内容は以下の通りです。それぞれSI、AIZE、GPUサーバーが事業の柱となっております。

事業分野

24年8月期注力内容

システム開発

SI

- ・顧客満足度向上、層の厚い若手エンジニアの底上げ
- ・チーム体制化を通じて、商流改善、プライムでのSES、受託開発案件獲得を推進
- ・当社独自AIエンジニア研修を通じて成長した経験豊富なエンジニアなどがAI開発事業へ柔軟なキャリアチェンジ
- ・生成AIを活用した新たなエンジニアリングの形の模索

AI

AIZE

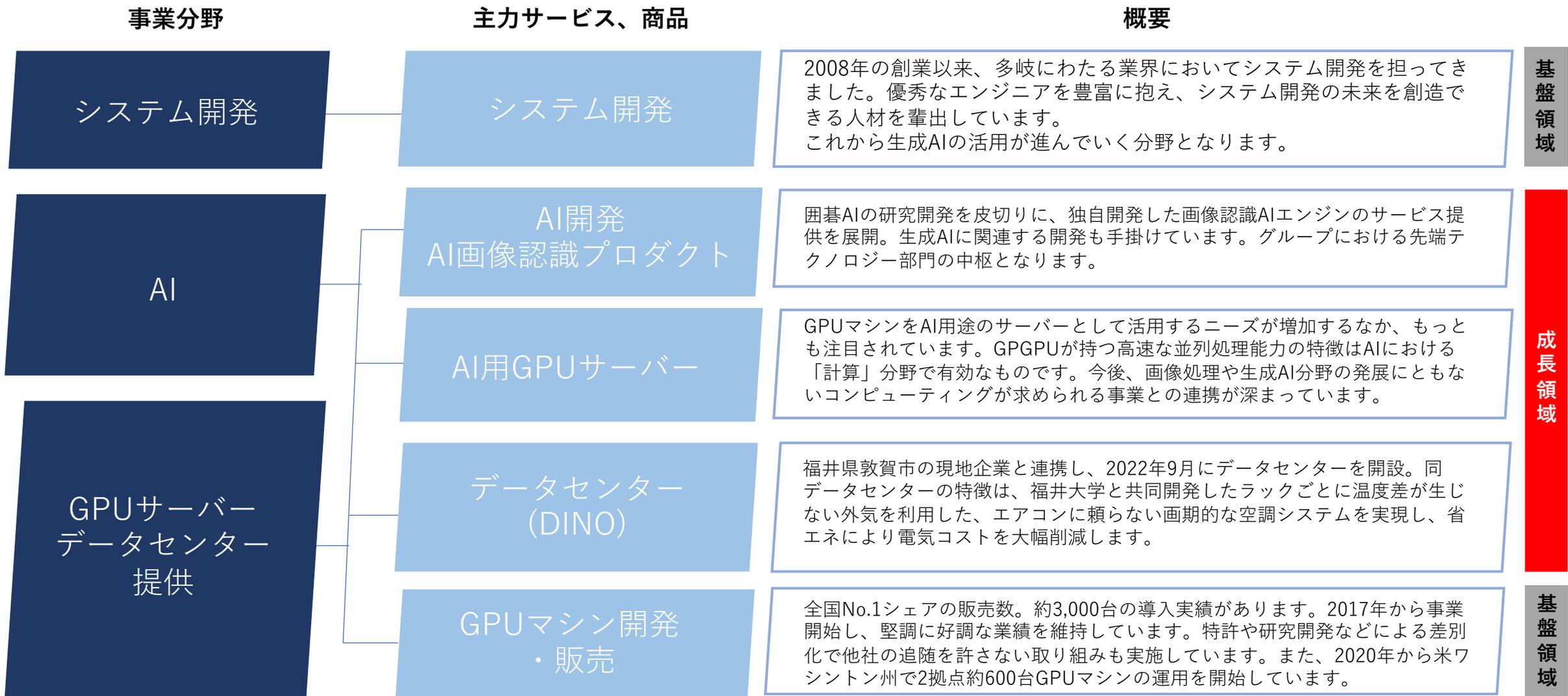
- ・改正道路交通法の施行に伴い需要の高まるアルコールチェッカー販売をドアロックツールとしたAI顔認証クラウドサービスの顧客拡大
- ・生成AIの活用を含むAIに関するニーズの引き合いを主として、一気通貫のオーダーメイドAI開発、ラボ型サービスの提供及び関連するDXプロジェクトのコンサルティング、開発
- ・業務提携などを通じた他上場企業等と当社との共同プロダクト開発、新規顧客領域の開発及び新サービス販売

GPUサーバー
データセンター提供

GPU

- ・高度な画像処理や生成AIを含むAIに求められる計算力不足に対応するAI開発用GPUサーバーの開発、販売。それに関連するサービスの開発
- ・モジュール型データセンターであるDINOの大規模案件への注力
- ・デジタル通貨、暗号資産、ブロックチェーンの動向、電力料金、投資環境及び税制の動向に応じたマイニング用途の顧客ニーズに対するきめ細やかな商品設計と、安心安全のサポート

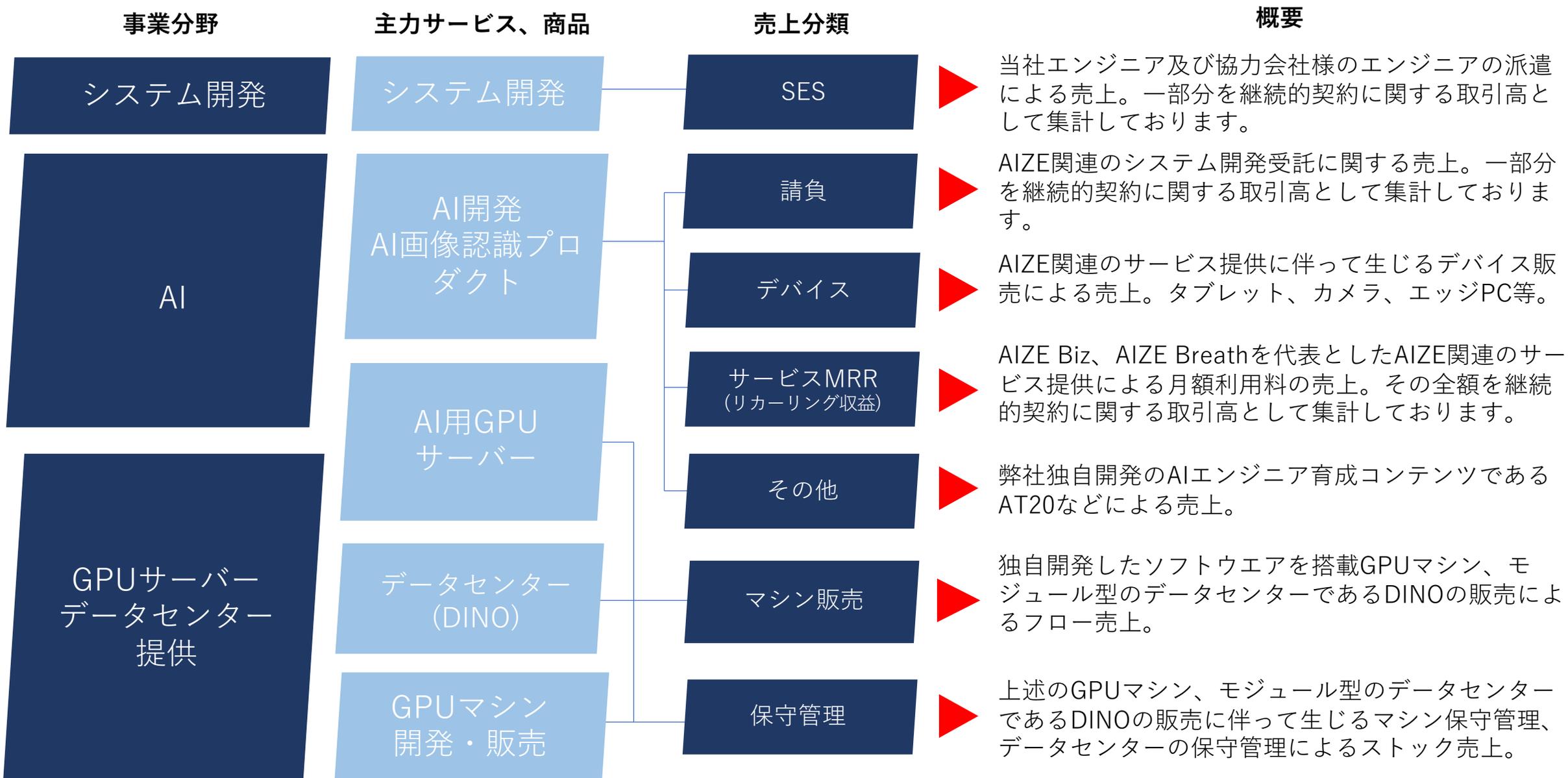
当社グループの主要な提供サービス、商品は以下の通りです。



基盤領域

成長領域

基盤領域



販売シナジー

AIZE、AI請負顧客へGPUサーバー提供、GPUサーバー購入客へのAI提供

当社AIZE部門のAI活用事業会社へのゼロフィールドのGPUマシンの導入に関するアップセル提案や当社AIZE部門営業見込み先、既存得意先へのゼロフィールドのデータセンターの導入に関するアップセル提案。マーケティング機能の共通化を目的に、ウェブ広告共通化、展示会共同出展を実施、ゼロフィールドの事業に関する認知向上と拡販を見込む

生産・技術シナジー

高性能GPUサーバーとAIエンジンの融合

トリプルアイズの自社開発AIエンジンと、一気通貫で実装可能なAIシステムに関するソフトウェアエンジニアの知見と、ゼロフィールドのGPUマシンやデータセンターに関するソフトとハードのエンジニアとの間で知見が融合しシナジー創出を見込む

投資シナジー

AI研究開発領域の深化、AIを活用したシステム開発

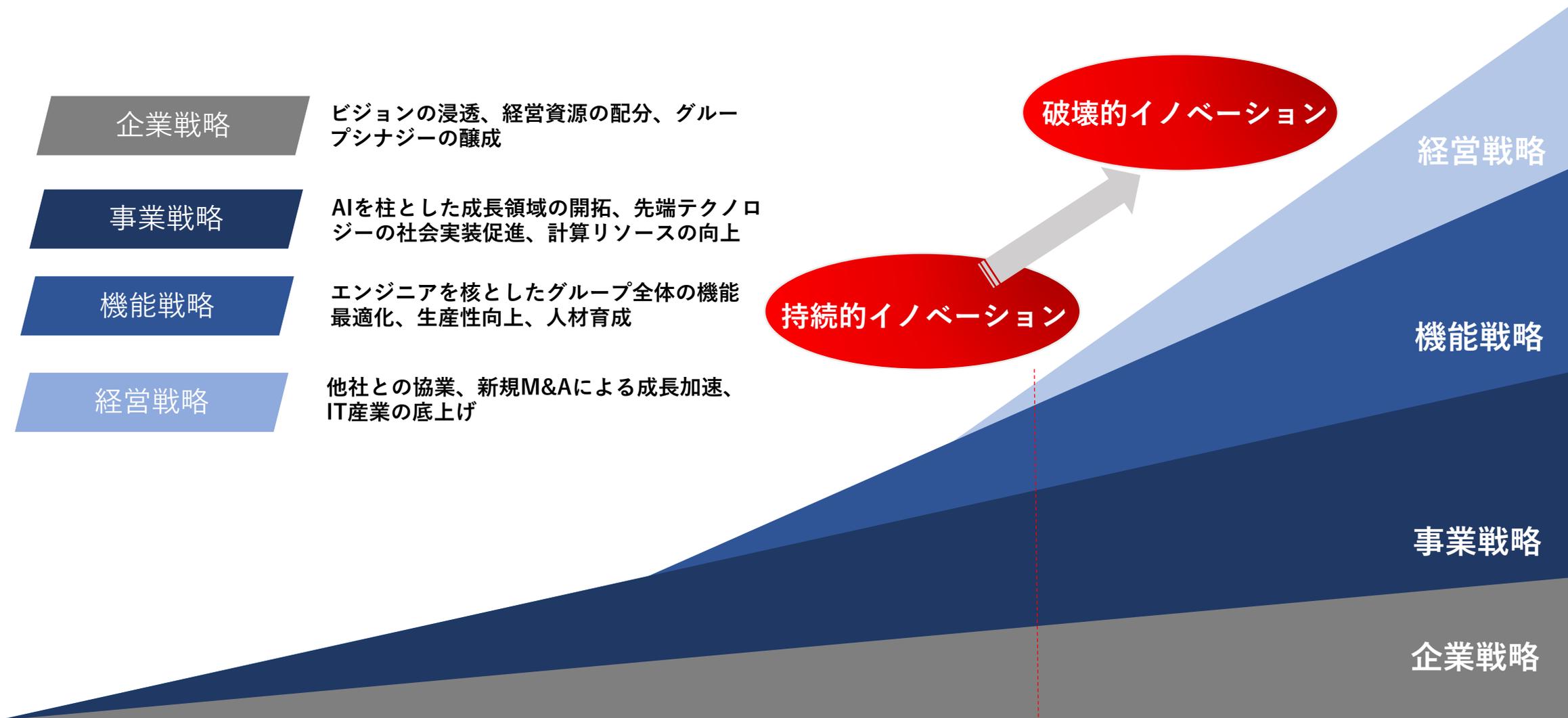
当社では現在AIに関する研究開発をAWSサーバー内で行っているが、当該研究開発における演算処理の高速化とコストダウンが可能となると見込む

管理シナジー

管理業務リソースの共通化

約280名の企業グループ規模のエンジニア集団となるため、社内情シス、管理部門、採用部門での業務共通化、社内ITインフラ共通化を図ることで、コスト改善や効率的な運用を見込む

技術的な進歩のみならず、人と社会への想像力を活かしてイノベーションを追求していきます。ゼロフィールドもグループインし総勢280名のエンジニア集団となりました。「AI×コンピューティングパワー」に挑戦している会社が稀有な中で、我々が破壊的なイノベーションを主導することで、次の市場のメインプレイヤーになります。産業として市場を拡大させテクノロジーによる新しい文化を醸成していきます。



当社AIソリューション事業の拡大及び推進、周辺事業領域の拡大、当社グループへの利益寄与を目的に、当社の既存事業との高い親和性と成長が見込める企業とのM&A及び業務提携を積極的に進めてまいります。また、M&Aを実行するための資金手当てについては、キャッシュフローのバランスを考慮した上で、金融機関からの借入によるファイナンスを基本とし、高いROEの実現を目指してまいります。なお、本資料提出日現在で、M&A及び業務提携に関して未発表の具体的に決定した事案はございません。

AIソリューション事業の拡大、推進

- ・当社AIソリューション事業の拡大に寄与する親和性の高いM&A、当社エンジニアリソース拡大に寄与するM&Aの推進
- ・当社AIソリューション事業におけるサービスの拡充に寄与する業務提携の推進

周辺事業領域への進出

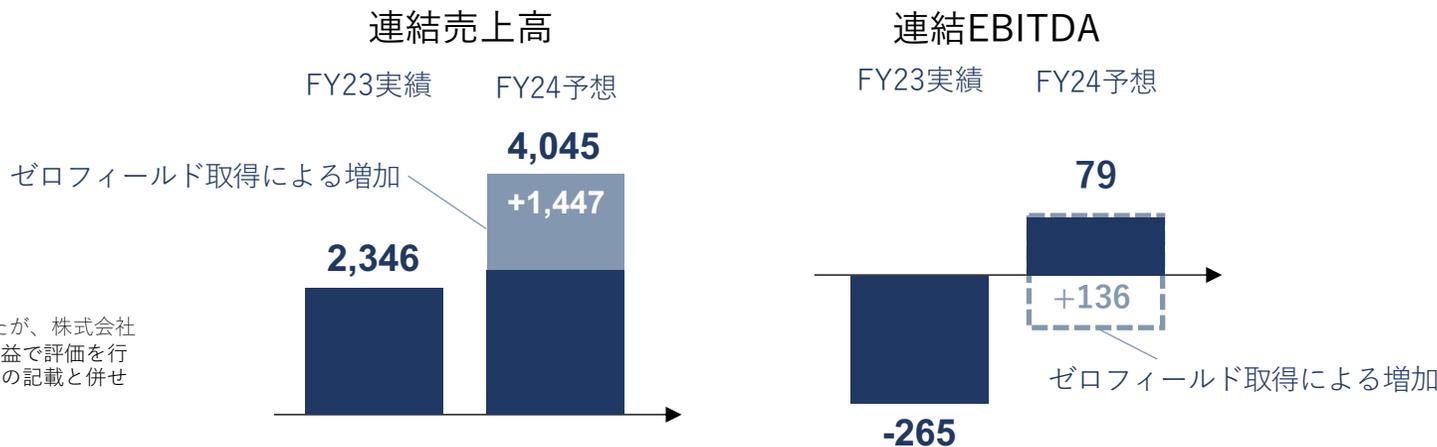
- ・当社AIソリューション事業との事業シナジーの見込める周辺事業領域のM&Aの推進
- ・マイノリティ投資についても当社との事業シナジー、取引発生可能性が高く見込める場合に積極的に検討

当社グループへの利益寄与

- ・上記事業シナジーを考慮した上で、当社グループの利益に寄与する、のれん負けしないM&A案件（マジョリティ投資）について積極的に検討
- ・EBITDA倍率のターゲットは4倍～5倍前後

■ 2023年9月1日取得済株式会社ゼロフィールド 2024年8月期連結業績への寄与度

- ・連結売上高 +14.4億円
- ・連結EBITDA +1.3億円



※EBITDA=経常利益+減価償却費+のれん償却費+支払利息
 これまでは、EBITDAを営業利益+減価償却費+のれん償却費 と集計・表示しておりましたが、株式会社ゼロフィールドの業績の実態を踏まえ、電気料金に係る補助金及び支払利息を含めた経常利益で評価を行うことが、事業の実態を適切に示すものと判断しており、四半期報告書のセグメント情報等の記載と併せて表示方法を変更しております。

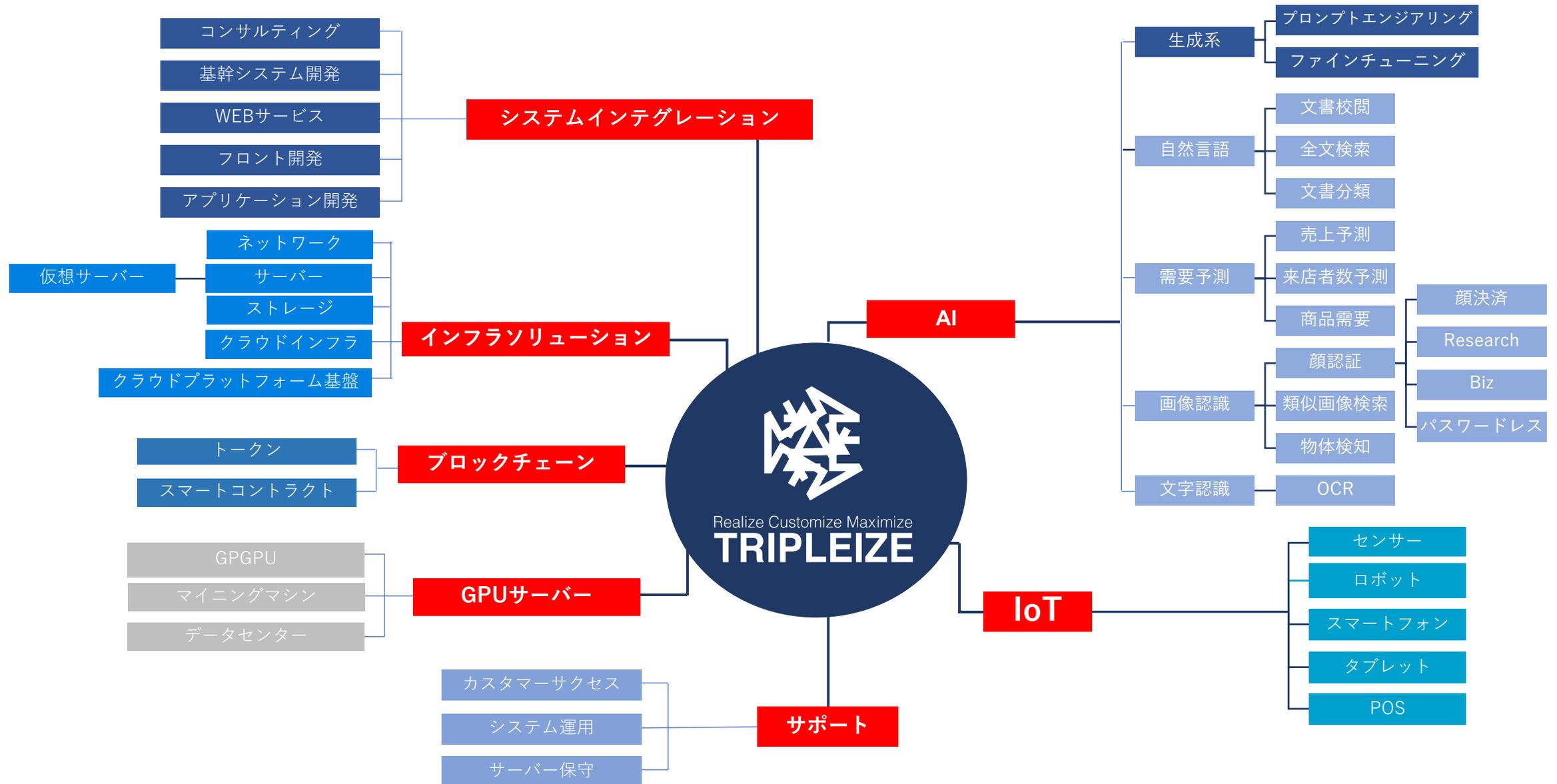
CONTENTS

四半期概況

成長市場におけるM&Aと成長戦略

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連



日本をのぞく世界の先端IT企業のほとんどが囲碁AIの研究開発に挑んでいます。囲碁AI 開発プロジェクトへの参画は、私たちのディープラーニングの大きな成果であり、AIエンジンの優秀性の証明となります。囲碁AIを通じたAIの研究は2014年から約10年に亘ります。

囲碁の局面変化 10^{360}

将棋の局面変化 10^{220}

全宇宙の粒子数 10^{80}

地球の海岸の砂粒数 10^{23}

日本総人口 10^8

囲碁の盤面は19×19の361マス。指し手の選択数は10の360乗と天文学的に複雑。技術力の差が勝敗に現れます。

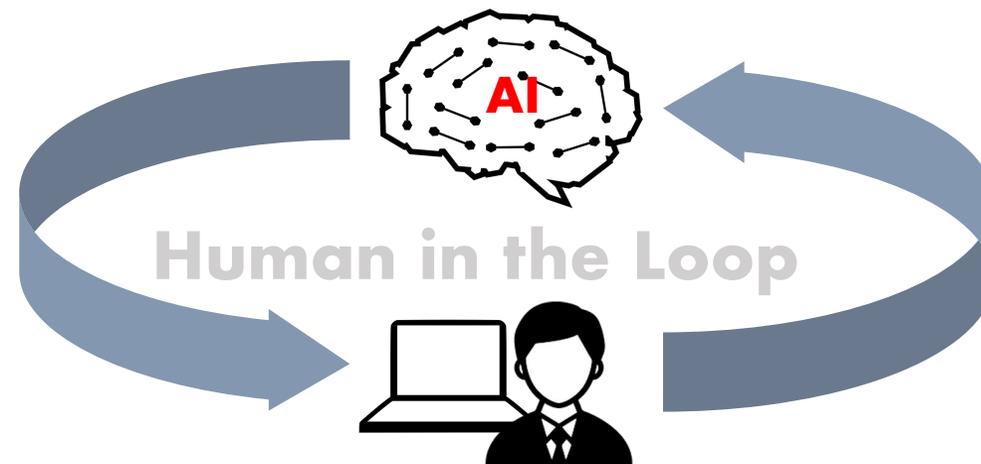
囲碁AI世界大会成績推移

開催時期	順位
2018年6月	8位
2018年12月	7位
2019年4月	4位
2019年12月	2位 ^{*1}
2022年3月	6位 ^{*2}
2023年11月	1位 ^{*3}

*1：共同開発プロジェクト「GLOBIS-AQZ」での成績

*2：2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会参加を見送っております。

*3：当社エンジニアの個人参加による成績です。

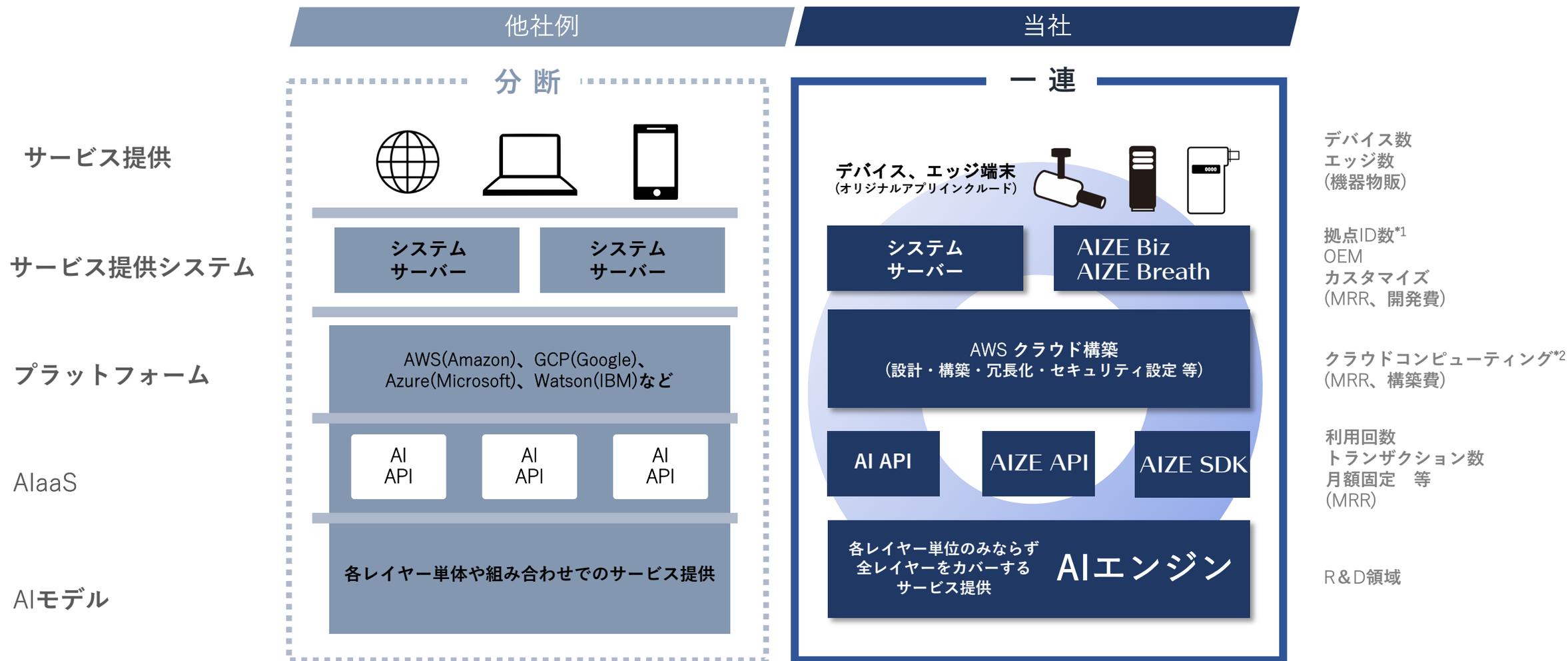


AIと人との共進 CAIの先行例

現在、将棋や囲碁のプロ棋士の多くがAIを使って戦術研究を行うようになってきました。それは一方的にAIに頼るのではなく、AIが持ち得ない感性や発想力をプロ棋士が発揮することによって、より高度なレベルの将棋や囲碁が生もうとしているのです。

そこは人間とAIが協力して切り拓く地平の最先端です。第3次AIブームの先をいく、人とAIの共存であるCAI (Co-evolutional AI：共進化AI) の時代がすでに始まっています。

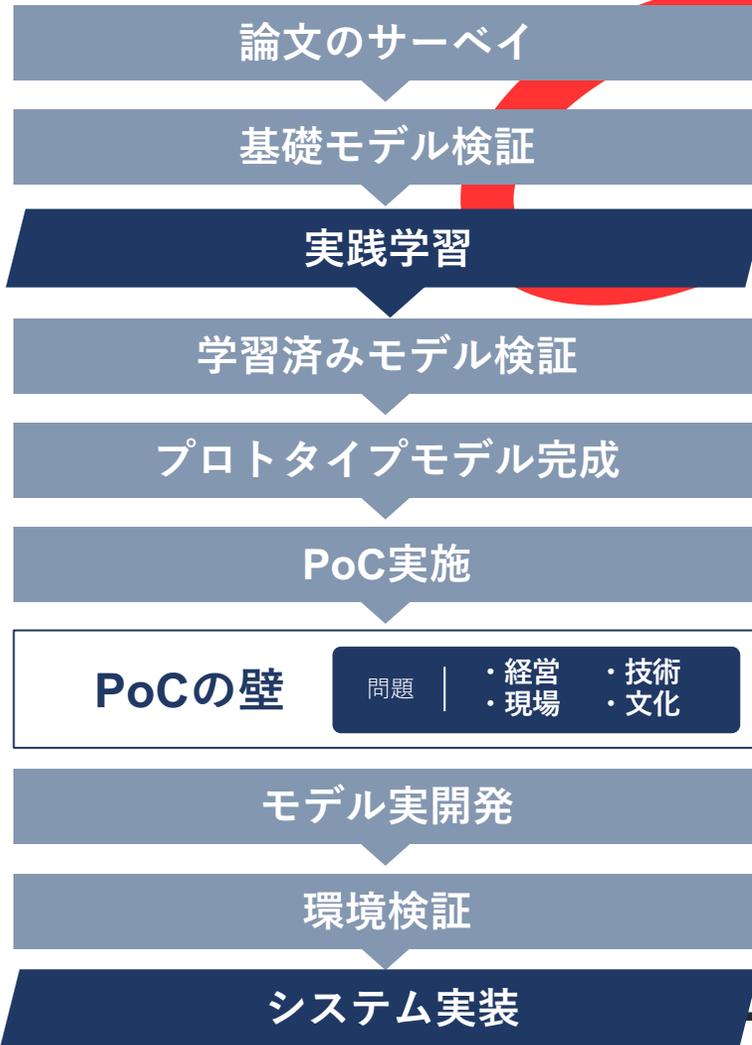
トリプルアイズは囲碁AIの研究を通じてAIと人間の共存の方法を探ってきました。誰もまだ見ぬ世界にすこしだけ早く足を踏み入れています。



*1：拠点ID数とは契約企業数やユーザー数、OEM契約等を総合した課金単位です

*2：AIZEのサーバーはAWS上に構築しており、クラウドコンピューティングの設計、構築等自社で行っております。当社は設計構築を事業化しております

AI実装のプロセス



技術力

「実践学習」のデータアプローチの強さ

手法はディープラーニングに固定せず、AIタスクによっては統計・機械学習アプローチも行います。データアプローチでは囲碁AIでも非常に重要で、トリプルアイズはここに知見があります。囲碁AIのデータは棋譜から特徴量を抽出する（画像解析）ため、そこに工夫が必要となり、強い囲碁AIに必要な技術なのです。

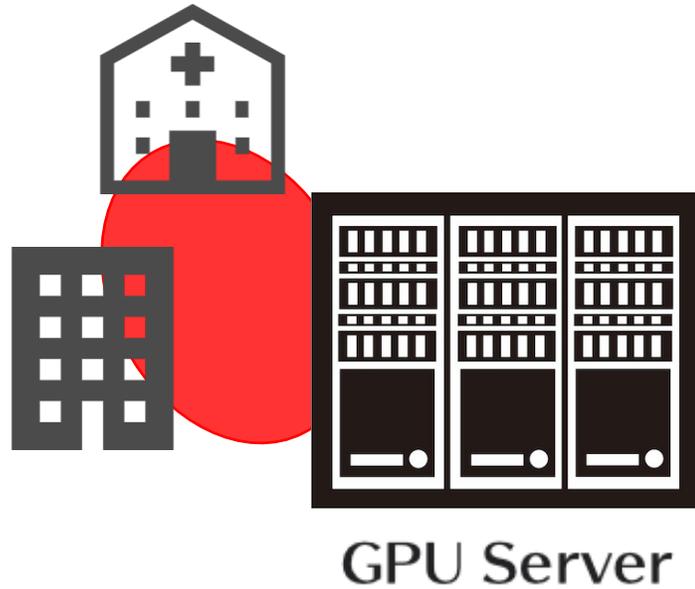
社会実装力

AIを「システム実装」できる珍しさ

トリプルアイズのサービス「AIZE」は、全て自社で開発しているながら、顧客ニーズから市場性を分析して、社会に本当に求められるテクノロジーの提供を行う、マーケットインの開発を行なっています。この実装力（カスタマイズ力）は、毎期の安定成長の実績に裏付けられております。

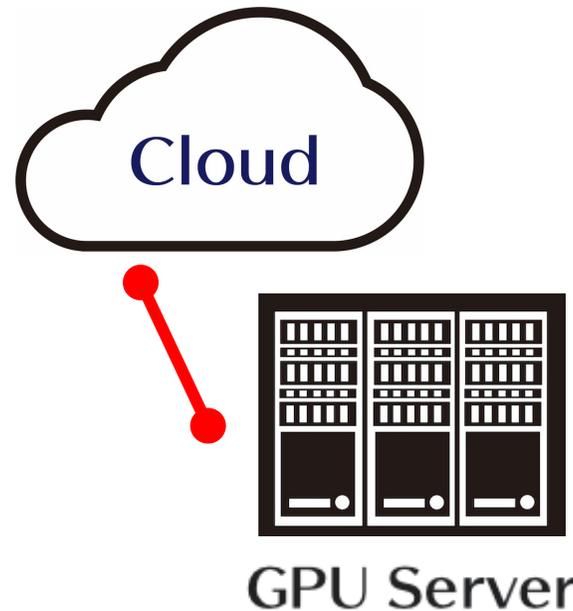
個人情報など機微なデータを扱う企業において、パブリッククラウドシステムの活用に慎重にならざるを得ない業務は多くあります。そうした業務はプライベートクラウド、オンプレミスでデータ運用されています。クラウドの利便性とオンプレミスの堅牢性を合わせもつハイブリッドクラウドシステムの提供できます。医療機関などセキュアなシステムを求められる業界に対応します。

オンプレミス 【基幹系】



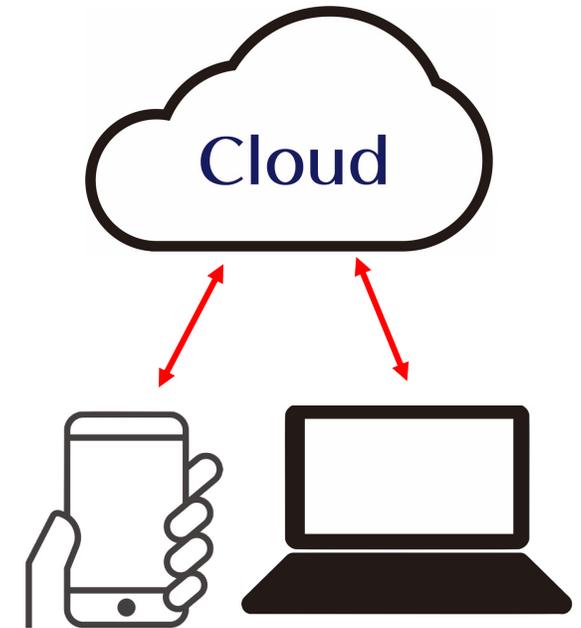
顔認証AIで使用するデータをオンプレミスで処理するにはGPUサーバーが最適となる。
AIZEはSDKで提供する。

ハイブリッドクラウド



機密情報を自社内で管理しながら、機動性ある情報処理はクラウドが担う。

クラウド 【情報系】



複数拠点での出退勤管理を一括管理するにはクラウドが最適である。
AIZEほか、SaaSの活用。

採用市場からのエンジニア採用が困難となるなか、トリプルアイズは囲碁AI研究開発、将棋採用、ロボット大会優勝など企業としての個性がきわだつことで優秀な人材の採用を実現しております。また、AT20というAI教育コンテンツや社内の定期的なエンジニア勉強会を通じて先端テクノロジー・エンジニア育成に注力することで、エンジニアの育成を行っております。さらに、ゼロフィールドのGPUマシンやデータセンターに関するソフトとハードのエンジニアとの間で知見が融合することによるシナジー創出を見込んでいます。

SI

エンジニア

エンジニアとしての実務経験
プロジェクトマネジメント
プロジェクトリーディング

独自開発AI教育コンテンツ

▶ **AT20**[%]
Let's challenge advanced technology

研修～検定実施

AI教育コンテンツによる
AIプロフェッショナル育成

AI

エンジニア

先端テクノロジー実務
自社プロダクト
プロジェクト参画



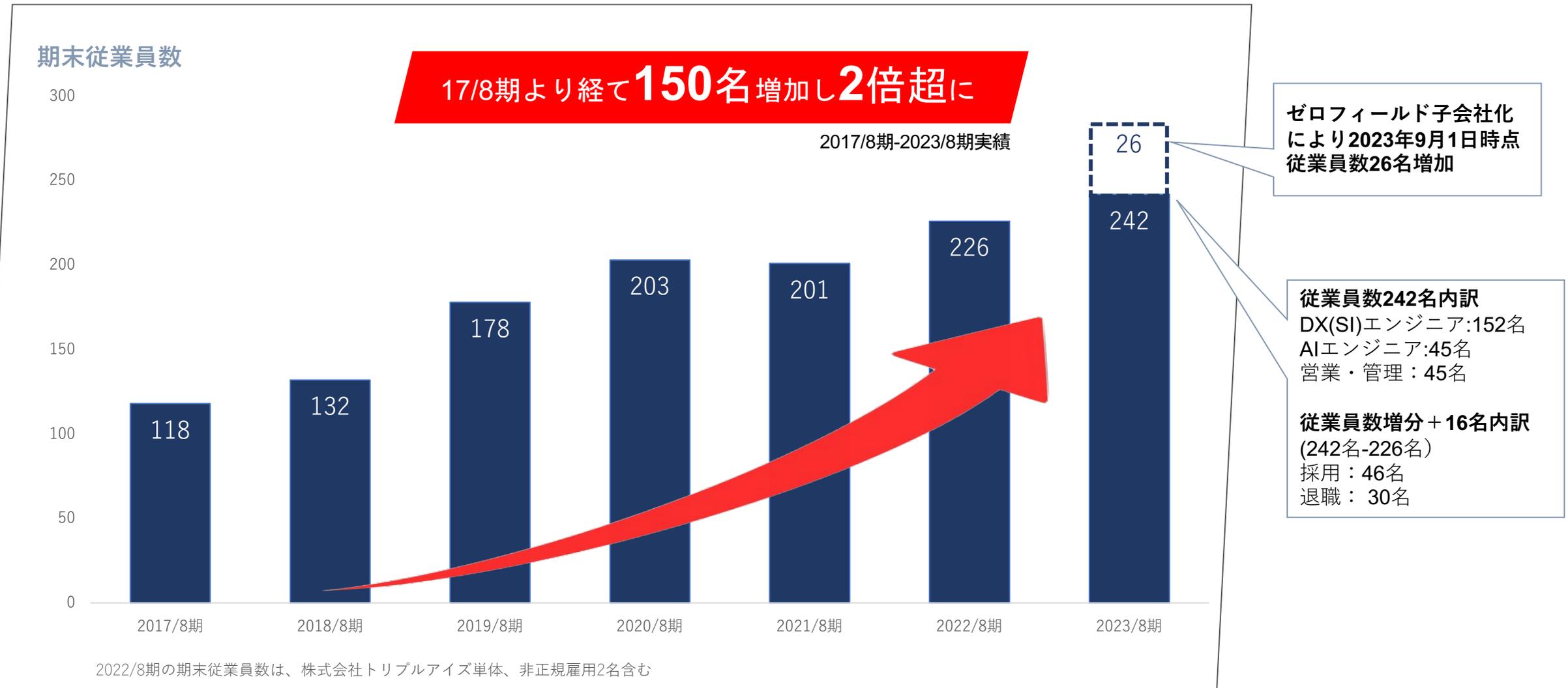
GPU

エンジニア

GPUマシン開発、構築
GPUマシンチューニング
データセンター運用



エンジニア成長第一主義のスローガンのもと、エンジニア人材不足時代の中、堅調にエンジニア人材が推移しております。またSI部門からAIZE部門への人材のシフト・拡大が続いております。



携帯型アルコールチェッカー「MT-AL01BT」を提供するミタチ産業株式会社と業務提携したのにつづき、アルコール検知器「ソシアック・ネオ」「ネオ・ブルー」を提供する中央自動車工業株式会社ともサービス連携を開始しました。また、コールセンター代行サービスを提供する株式会社バディネットとも連携し、早朝や深夜時間帯でもリアルタイムでの酒気帯び有無の確認の義務に対応いたしました。



CONTENTS

四半期概況

成長市場におけるM&Aと成長戦略

当社グループの強み

Appendix：業績、会社概要、事業関連

- 深層学習（ディープラーニング）発明 … 2006
 ISLVRCで深層学習手法を駆使するトロント大圧勝 … 2012
 Google社、機械学習による猫の画像認識に成功 … 2014
 DeepMind社の囲碁AI「alphaGo」、プロ棋士に勝利 … 2016

人知を超える神の一手が打たれた！



出典
<https://www.asahi.com/articles/ASK4B5SJ4K4BUCLV00Y.html>

- OpenAI社のGPT-3.5発表 …… 2022

- 2023 …… 9月 株式会社ゼロフィールドを連結子会社化

- … 9月 東京都千代田区に株式会社トリプルアイズを設立
- … 8月 社内に囲碁AIプロジェクトチーム発足
- … 4月 国内初のブロックチェーン業界団体「ブロックチェーン推進協会」設立を支援
 7月 AI(DeepLearning)基盤となる「Deepize」をリリース
- … 8月 測量作業向けドローン制御アプリ「Droneize」をApp Storeにてリリース
 9月 産業用モーターとITを融合したIoTサービスを開始
- … 3月 AIによる画像認識プラットフォーム「AIZE」(アイズ)を発表
 「AI 囲碁世界一奪取宣言」を発表
 将棋採用(商標登録)スタート
- 4月 囲碁AI世界大会「博思杯2019」(開催場所:中国、福州市)にて4位を獲得
 7月 囲碁AI大会「2019年CGFオープン」にて1位、2位独占
 12月 囲碁AI世界大会「第11回UEC杯コンピュータ囲碁大会」にて
 プロジェクト参画したGLOBIS-AQZが準優勝
- … 3月 AIZEによる顔認証決済サービス「ヤマダ Pay」がスタート
 7月 画像認識プラットフォーム・AIZE 開発プロジェクトVer.2へ移行
- … 3月 創業者・福原智 急逝 山田雄一郎社長就任
- … 5月 東京証券取引所グロース市場上場

総合商社

Marubeni

金融



いちよし証券

JIA Japan Investment Adviser

小売・流通

銀座メガネコンタクト



食品卸売



三井食品株式会社
MITSUI FOODS CO., LTD.

電気機器

AIZE販売パートナー



A.T.WORKS



情報通信



AIZE販売パートナー



CUBE SYSTEM

Sony Biz Networks Corporation



建設ICT



株式会社 シーティーエス

建築



東急建設

エレクトロニクス商社

三ツ子産業株式会社

セキュリティ

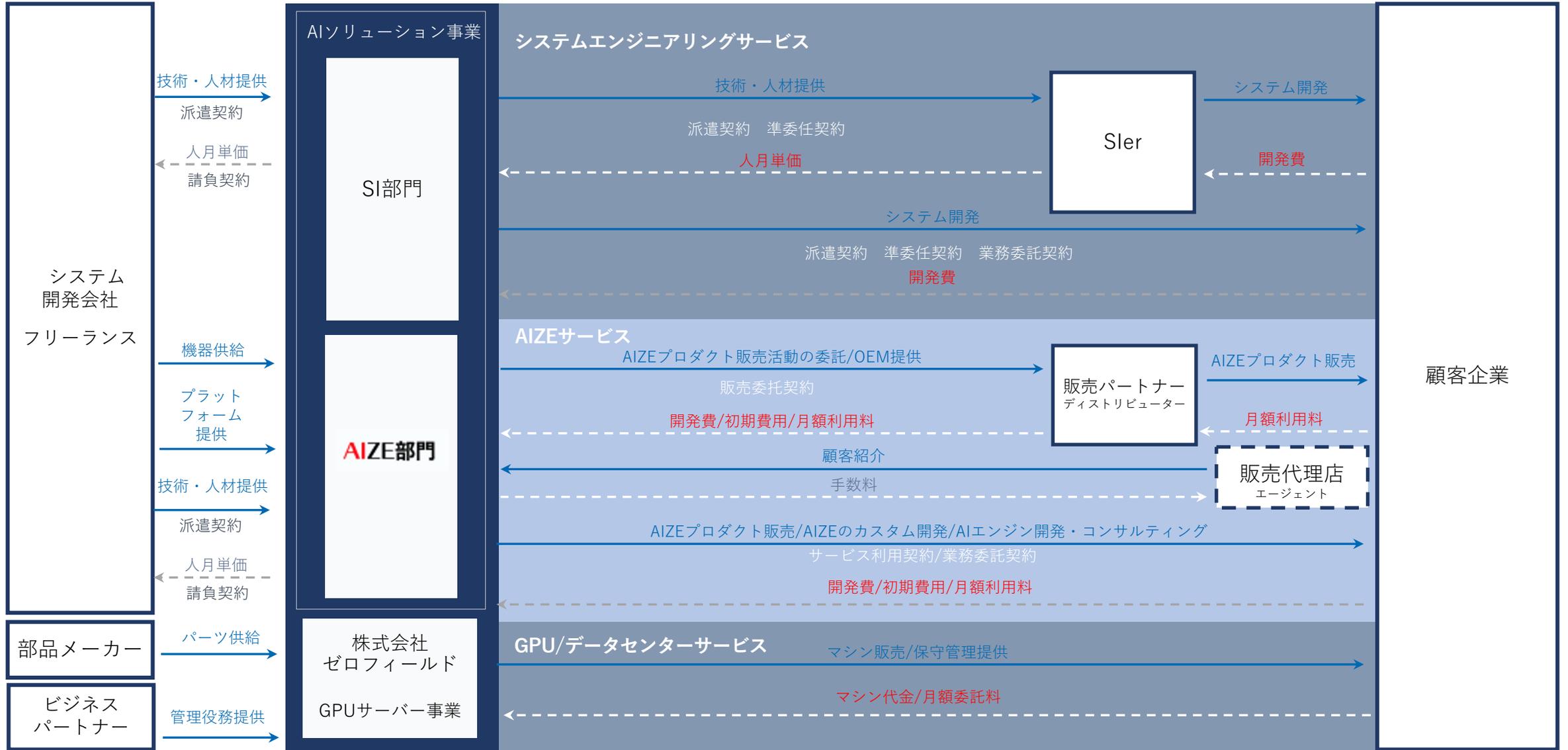
AIZE販売パートナー

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

ビジネスパートナー

当社グループ

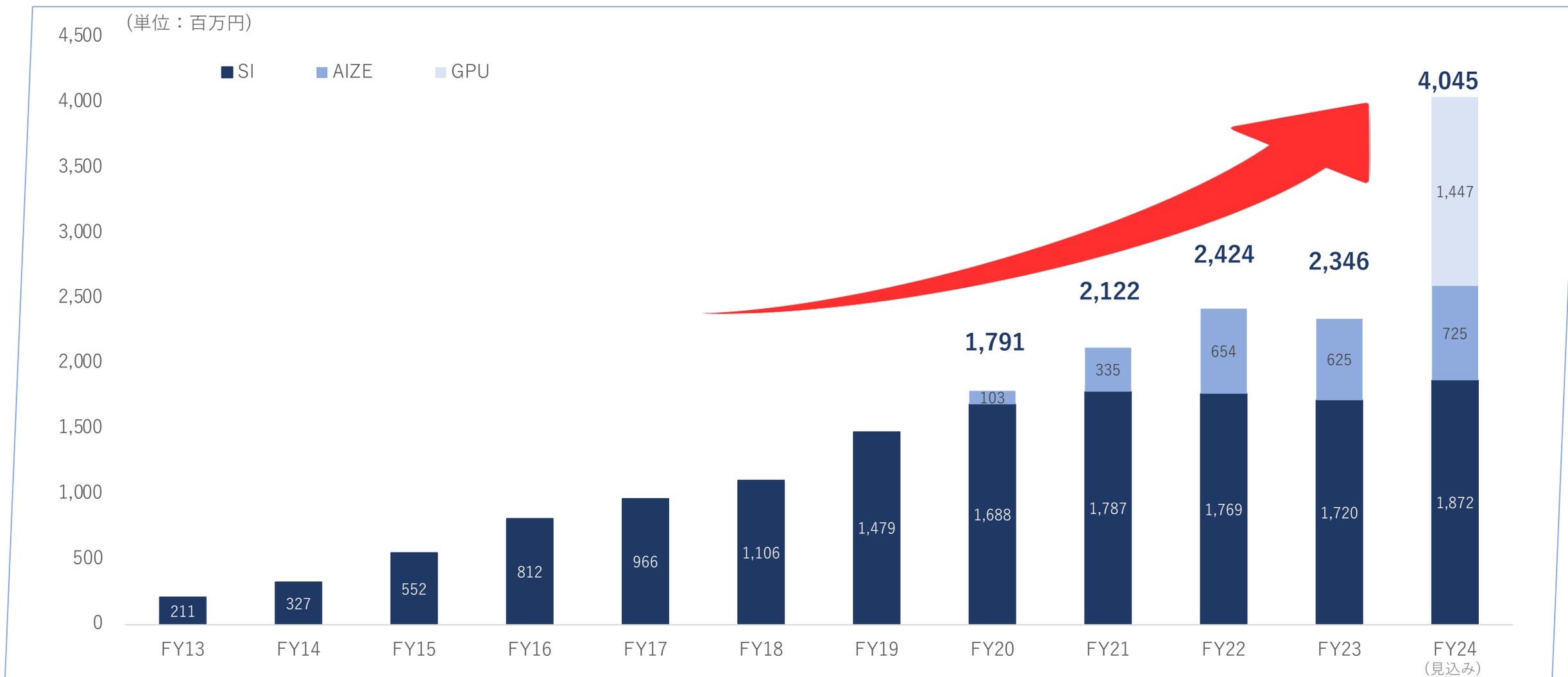
エンドユーザー



国内外複数のデータセンターを単独で開設、運用まで行っております。全てのデータセンターは24時間、一括で管理。高機能な監視システム体制を構築しております。最大の課題である消費電力の削減も取り組んでおり、福井大学と共同で排気システムを開発し、冷却かかるコストの低減を実現するモジュール型データセンターを開発し、設置を進めております。



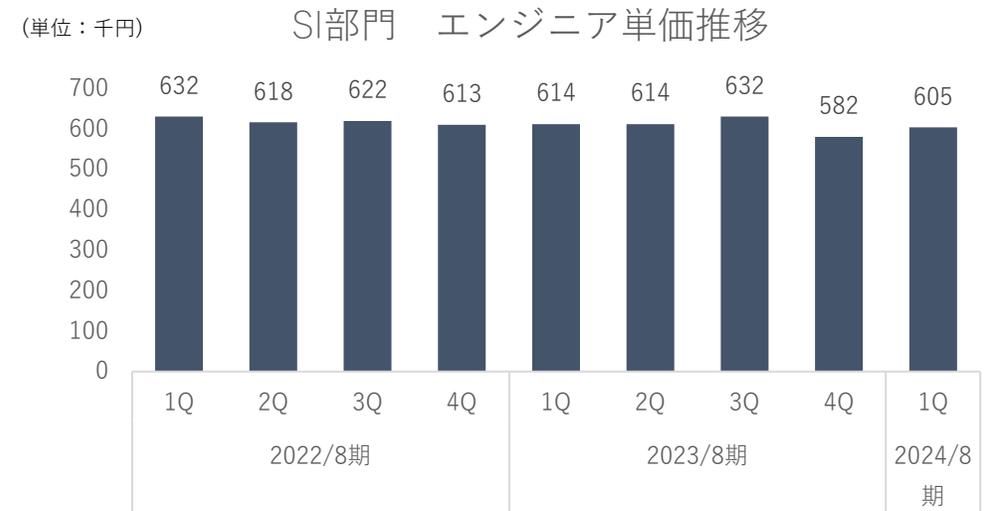
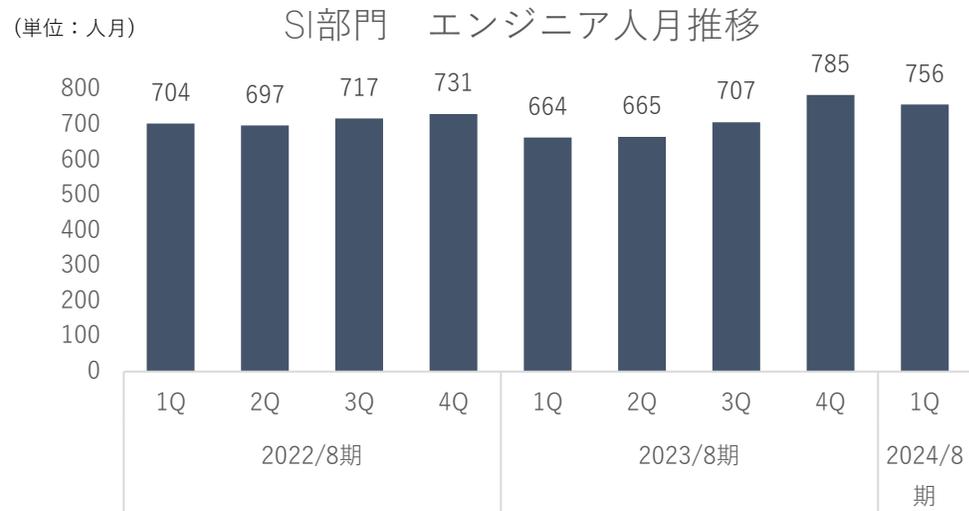
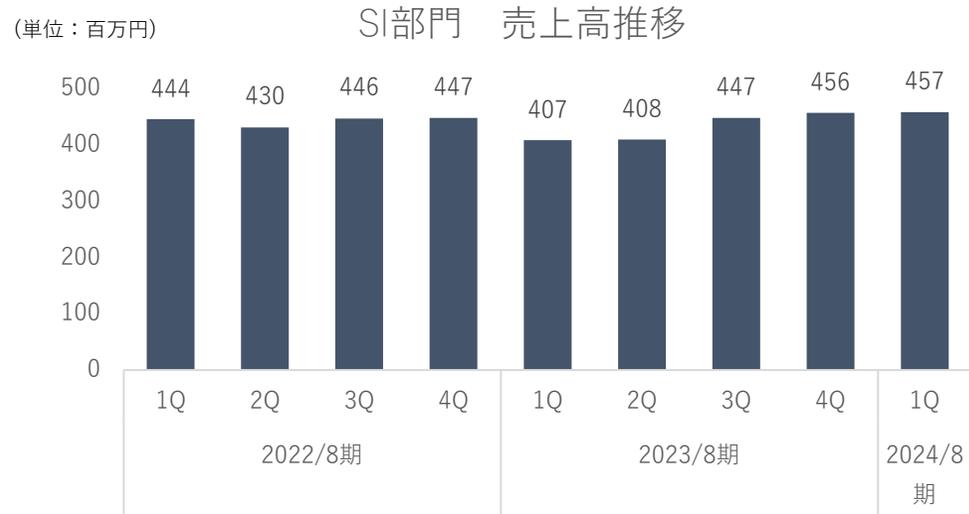
FY13からFY21にかけてSI事業を主として10倍の成長をしてきました。FY22にかけては、AIZE事業の拡大によりAIという成長性の高い分野での売上規模割合が増加しました。FY23は検温機器ハードのスポット売上の反動減により前期比減収となっております。FY24において株式会社ゼロフィールドを連結に取り込むことで成長領域の売上を積み上げ、成長し続ける会社としてさらに前進していきます。



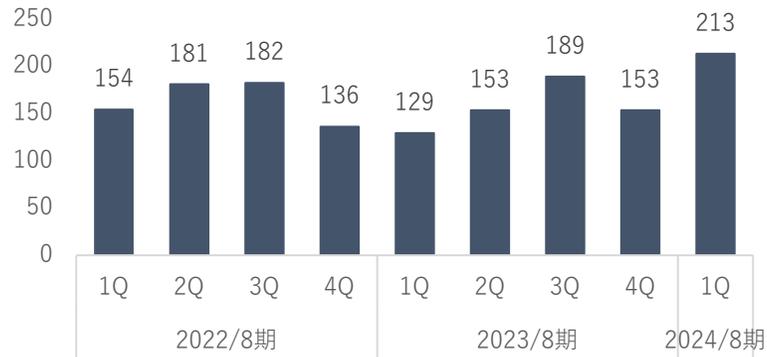
(単位：百万円)	2021年8月期 通期実績	2022年8月期 通期実績	2023年8月期 通期実績	2024年8月期 通期計画
売上高	2,122	2,424	2,346	4,045
売上総利益	541	693	578	1,254
営業利益・損失(△)	60	133	△269	△96
EBITDA	97	131	△265	79
経常利益・損失(△)	83	115	△290	△86
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失(△)	38	112	△825	△87

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息。これまでは、EBITDAを営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費と集計・表示しておりましたが、株式会社ゼロフィールドの業績の実態を踏まえ、電気料金に係る補助金及び支払利息を含めた経常利益で評価を行うことが、事業の実態を適切に示すものと判断しており、四半期報告書のセグメント情報等の記載と併せて表示方法を変更しております。

	2022/8月期				2023年8月期				2024年 8月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
SI売上(千円)	444,851	430,889	446,025	447,858	407,709	408,679	447,098	456,942	457,875
SI人月(人月)	704	697	717	731	664	665	707	785	756
SI単価(千円)	632	618	622	613	614	614	632	582	605
SI粗利(千円)	96,608	92,289	95,397	104,489	96,681	96,646	98,230	88,948	93,284
AIZE売上(千円)	154,311	181,967	182,145	136,456	129,737	153,161	189,151	153,777	213,461
AIZE粗利(千円)	67,659	95,045	86,813	55,064	47,614	57,657	65,575	26,792	74,925
AIZE請負売上(千円)	94,786	79,441	79,750	88,812	84,491	93,011	128,839	113,228	115,715
AIZEデバイス売上(千円)	29,444	54,876	44,337	13,867	12,985	26,485	7,167	7,959	55,724
AIZEサービス(MRR)売上(千円)	25,402	29,346	25,041	24,261	23,404	25,853	24,313	24,276	27,752
四半期末時点拠点ID数	1,001	1,302	1,408	1,639	1,874	2,533	2,704	3,250	5,801



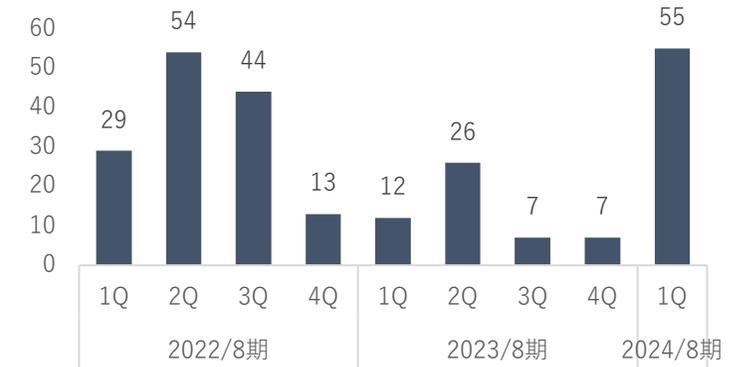
(単位：百万円) AIZE部門 売上高推移



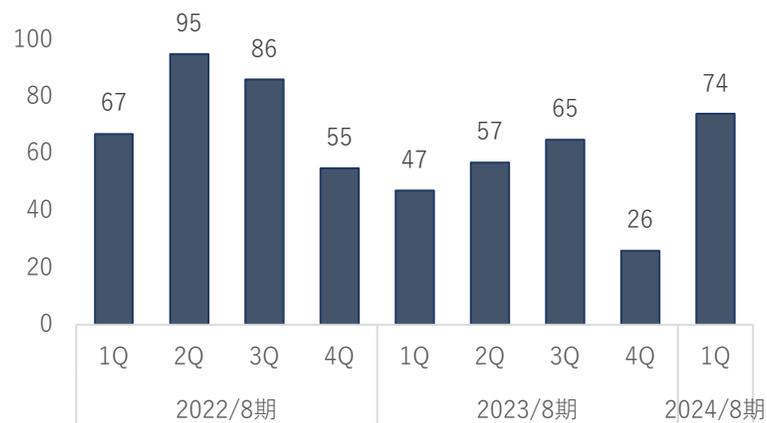
(単位：百万円) AIZE請負 売上高推移



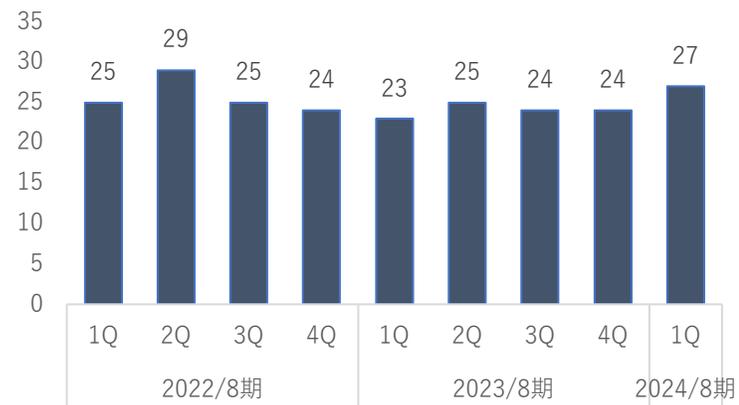
(単位：百万円) AIZEデバイス 売上高推移



(単位：百万円) AIZE部門 売上総利益推移



(単位：百万円) AIZEサービスMRR 売上高推移



(単位：ID数) AIZE拠点ID数推移



2023年9月において、株式会社ゼロフィールドの株式取得により現金及び預金が1,199百万円減少したものの、第三者割当による新株の発行（現預金299百万円の増加）を実施しております。株式会社ゼロフィールドの連結を相まって、のれん/顧客関連資産は896百万円の増加、短期及び1年内返済長期借入金は448百万円、純資産は274百万円増加しております。

(単位：百万円)	2023年8月期 期末	2024年8月期 第1四半期	増減額	うち ゼロフィールド 連結影響額
流動資産	2,152	2,852	+700	1,558
（うち現金及び預金）	1,754	1,788	+34	917
固定資産	149	1,459	+1,309	1,366
（うちのれん/顧客関連資産）	2	898	+896	896
資産合計	2,302	4,312	+2,009	2,925
流動負債	846	2,288	+1,441	1,476
（うち短期/1年内返済長期借入金）	480	929	+448	431
固定負債	1,123	1,416	+292	272
（うち長期借入金）	1,123	1,284	+160	140
負債合計	1,970	3,705	+1,734	1,748
純資産合計	332	607	+274	—
負債及び純資産合計	2,302	4,312	+2,009	2,925

純資産比率は14.1%ですが、今後の事業進捗によって増加していくことを見込んでいます。前受金449百万円については第2四半期以降の売上に関する一部入金に伴うものです。契約負債526百万円についてはストック管理収入の売上計上に伴い契約期間にわたって取り崩されるものです。有利子負債2,213百万円についてはゼロフィールド買収に伴う1,200百万円で7年間の長期借入を含んでいます。のれん(609百万円)は7年、顧客関連資産(288百万円)は12年に渡りそれぞれ均等に償却されます。

資産 4,312	負債・純資産 4,312
現金及び預金 1,788	有利子負債 2,213
その他流動資産 1,064	契約負債 526
のれん/顧客関連資産 898	前受金 449
その他固定資産 560	その他負債 515
	純資産 607

(単位：百万円)

項目	リスク	対策	発生可能性	影響度
事業環境の変化	AIソリューション事業の領域には国内外多くのIT企業が参入しており、市場は形成期にあります。生成AIによる大きな変化が生じる中で、事業環境がさらに大きく変化する可能性があります。	最新の技術動向や市場環境の変化を把握できる体制を構築、AIに関する論文のサーベイ、マーケティング調査の実施のみならず、業界のオピニオンのキャッチアップを仕組み化しております。	中	中
画像データの利活用に関する法令などの規制	単に個人情報保護法等の法令を遵守するのみならず、プライバシー保護の観点より考慮する必要があります。関連する法令等が改正され、あるいは社会的な要請が大きく変化した場合には、事業に影響を及ぼす可能性があります。	総務省・経済産業省より公表された「カメラ画像利活用ガイドブックver.3.0」（2022年3月）を参照し、法令及び社会規範上認められると判断した範囲内において、画像情報の利活用を行っておりますが、今後も関連法案の修正に備えセキュリティ技術の向上に努めております。	中	大
個人情報の保護	「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者として義務を課されており、プライバシー保護の観点から広範な配慮が求められています。情報の漏洩、不適切な利用等について配慮が不足した場合には、レピュテーションリスク等によって事業に影響を及ぼす可能性があります。	情報の漏洩防止はもちろん、不適切な利用等の防止のため、情報管理を経営上の重要事項と考え、社内においてもこれらの情報へのアクセスを制限するとともに、「情報セキュリティ管理規程」「個人情報取扱規程」等を制定し、全従業員に対する社内教育を実施するなど、法令及び関連するガイドラインの遵守体制を整えております。	中	大
暗号資産の市場価格の変動	株式会社ゼロフィールドは、暗号資産のマイニングマシンの販売を主な事業としております。暗号資産の市場価格はボラティリティがあるため、当該価格が低迷する場合、マイニング報酬が減少するため、同社の顧客層のマイニングに対するインセンティブが損なわれ、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	これまでの販売実績をベースに、市場動向に合わせた販売施策を実施しております。加えて、暗号資産の市場価格の変動に左右されない、高性能GPUサーバーの販売やデータセンター運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大
税制改正	株式会社ゼロフィールドのマイニングマシンは、顧客の資産取得時における償却のニーズに対応して販売しております。税制の改正により、同社のマイニングマシンの償却に関するニーズが低減し、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	税制改正の影響を受けない、ASIC等の取り扱い製品を増やすことで新しいニーズを創出しております。加えて、税制変更に伴うニーズの低減に左右されない、高性能GPUの販売やデータセンターの運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大

- 2023.09.01 GPUサーバーがAI開発を加速する—トリプルアイズがゼロフィールドを子会社化
- 2023.09.04 ラジオNIKKEI「この企業に注目！相場の福の神」に当社代表 山田がゲスト出演しました
- 2023.10.08 連覇！トリプルアイズ将棋部が前回大会に続き日本一に—第124回職域団体対抗将棋大会
- 2023.10.12 藤井八冠誕生！ 広がる将棋熱は採用活動にも—「WBS」でトリプルアイズの将棋採用が紹介されました
- 2023.10.20 AIはじめるなら今！ここに来れば答えが見つかる—“Japan IT Week秋”に出展します
- 2023.10.24 不動産ビジネスを最速でAI化する方法—トリプルアイズの藤澤由士がダイヤモンド・セレクト11月号に登場
- 2023.12.05 東海エリアの中小企業にAI導入促進—「2023デジタルワールドビジネスAI展」に出展
- 2023.12.27 IR・株式投資リアルセミナーのお知らせ—東京ビッグサイト「資産運用EXPO」にて当社代表・山田が登壇

2023年8月期以降、株式売買高の反応が相対的に大きかったリリースを任意に記載しております。

2022.08.31	顔認証AIのトリプルアイズがSMS認証大手のアクリートと業務提携	業務提携
2022.11.14	顔認証AIを用いた乗降データ取得の実証実験 トリプルアイズが丸紅、信州大学と共同で	AI
2022.12.01	トラック協会の助成対象機器にトリプルアイズのアルコール検知器が選定	新サービス
2023.02.13	AIの眼で「食の信頼性」を社会に提供するートリプルアイズとセキュアがワーキンググループを立ち上げ	AI
2023.03.07	「顔」でドアロック解錠が可能にートリプルアイズとエーティーワークスが顔認証ロックシステムを提供開始	新サービス
2023.03.22	顔認証AIがTeamSpiritと連携開始ー顔認証による打刻で、よりセキュアでフレキシブルな勤怠管理が実現	新サービス
2023.04.17	4月17日（月）夜10時より放送のWBS内にてトリプルアイズの顔認証技術が紹介されます	メディア
2023.04.26	太陽光発電施設での盗難対策にAI監視カメラを活用ーJIAとセキュリティソリューションの実証実験開始	AI
2023.07.27	株式会社ゼロフィールドの 連結子会社化について	M&A
2023.11.08	24 時間 365 日の有人によるアルコールチェックヒアリングが可能にーバディネット社とサービス連携	新サービス
2023.11.13	アルコール検知器大手とシステム連携 ー中央自動車工業とサービス提供開始	新サービス

AI	AI(Artificial Intelligence：人工知能)とは、人間の知的ふるまいの一部を、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。経験から学び、新たな入力に順応することで、人間が行うように柔軟にタスクを実行する。
特徴量	特徴量とは、コンピュータが学習するデータにどのような特徴が含まれているのか数値化したもの。
エンジン	エンジンとは、特定の情報処理を実行するためのひとまとまりになったソフトウェアやシステムなどのこと。
システム インテグレーション	システムインテグレーション (System Integration：SI) とは、企業の情報システムの導入に際し、ユーザーの目的に応じた企画の提案からハードウェア、ソフトウェアの選定、システムの開発や構築、運用までのトータルなサービスを提供することを指す。
DX	DX (Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション) とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念であり、企業においては、概ね「AI、IOT、クラウドコンピューティングなどのテクノロジーを利用して、ビジネスモデルや製品・サービス及び業務・プロセス・組織風土を変革させ、競争優位性を高めること」という意味合いで用いられる。
Sier	Sierとは、クライアントの業務を把握・分析し、その課題を解決するようなシステムの企画、構築、保守・運用までの全工程を一貫して請け負う業者を指す。
ブロックチェーン	ブロックチェーンとは、データが地理的に離れたサーバーに分散保持され、一定の形式や内容のデータの塊 (ブロック) を改竄困難な形で時系列に連結していく技術。
IoT	IoT (Internet of Things：モノのインターネット) とは、あらゆる「モノ」がインターネットに接続される仕組みのこと。
オンプレミス	システムの稼働やインフラの構築に必要なサーバーやネットワーク機器、あるいはソフトウェアなどを、使用者が管理している施設の構内に機器を設置して運用することをいう。
マイニング	暗号資産 (仮想通貨) のマイニングとは、取引などのデータをブロックチェーンに保存する作業を行い、その報酬として暗号資産を得る行為のこと。
プロンプトエンジニアリング	生成AIは、命令 (プロンプト) の出し方によって、出力されるコンテンツの質が大きく異なるため、AI (人工知能) から望ましい出力を得るために、指示や命令を設計し最適化する技術のこと。
ファインチューニング	機械学習において、大量のデータで事前学習されたモデル (事前学習済みモデル) に対して、解きたいタスクに応じた独自のデータを追加で学習させ、新たな知識を蓄えたモデルを作り出す技術。
GPGPU	General-purpose computing on graphics processing unitsの略。GPUの演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術のことである。
トークン	企業または個人により、既存の暗号資産 (仮想通貨) をプラットフォームとして、そのシステムを間借りする形で発行される、独自のブロックチェーンを持たない暗号資産のこと。広義では、既存の暗号資産そのものをトークンと呼ぶこともある。

VISION

トリプルアイズの経営理念

テクノロジーに想像力を載せる



Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE



Photo by Rika Takei

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。